

一宮研伸大学紀要執筆要項

(体裁)

1. 原稿は原則として、現代仮名遣い・常用漢字による和文とする。
2. 投稿論文は、原稿フォーマットを使用し、ワードプロセッサで作成する。
 - 1) 余白は、上下 24mm、左右 19mm、横書き、22 字×40 行×2 段とする。
 - 2) 書式について、和文は、原則 MS 明朝 10.5 ポイント、英文は、原則 **Times New Roman** 10.5 ポイントとする。タイトルは和文、英文とも 16 ポイントとする。見出しはすべてゴシック体とする。章節 I. II. III. 本文中の段落番号は、1. 1) (1) の階層順とする。
 - 3) 数字は特別の場合以外は半角アラビア数字を用いる。原稿中(文献リスト含む)の英数字はすべて半角文字とする。
 - 4) 読点は「、」句点は「。」を用いる。文献リストの文献表記には、原則として「,」と「.」を用いる。
3. 専門的な略語を使用する際には、初出時に正式名を書き、それに続いて略語を () 内に示す。

(構成と規定枚数)

4. 投稿論文等の枚数は規定の分量におさめる。
 - 1) 原著は、図・表を含んで刷り上り 16 頁以内とする。
 - 2) 総説、研究報告は、図・表を含んで刷り上り 10 頁以内とする。
 - 3) 実践報告、資料は、図・表を含んで刷り上り 6 頁以内とする。
5. 表紙の記載
表紙の所定の位置に、別添のフォーマットに従って以下の事項を記載する。
 - 1) 原著は、論文の種類、タイトル(和文・英文)、著者の氏名(和文・英文)と所属(和文)、要旨(構造化: 目的、方法、結果、結論、和文 400 字程度・英文 250 語程度)、キーワード(和文・英文)を記載する。
 - 2) 総説は、論文の種類、タイトル(和文・英文)、著者の氏名(和文・英文)と所属(和文)、要旨(構造化・非構造化、和文 400 字程度)、キーワード(和文)を記載する。
 - 3) 研究報告は、論文の種類、タイトル(和文・英文)、著者の氏名(和文・英文)と所属(和文)、要旨(構造化、和文 400 字程度)、キーワード(和文)を記載する。
 - 4) 実践報告は、論文の種類、タイトル(和文・英文)、著者の氏名(和文・英文)と所属(和文)、要旨(非構造化、和文 400 字程度)、キーワード(和文)を記載する。
 - 5) 資料は、論文の種類、タイトル(和文・英文)、著者の氏名(和文・英文)と所属(和文)を記載する。要旨(非構造化、和文 400 字程度)は、できる限り記載が望ましい。
6. 原著、研究報告は IMRAD (Introduction, Method, Results, and Discussion) に従い、I 背景、II 方法、III 結果、IV 考察等の見出しをつけて記述する。

7. 原稿は、ページの下部、中央にページ番号を付記する(ヘッダーとフッター機能使用)。

(提出)

8. 原稿は、原本と査読用を以下のとおり用意して提出する。

- 1) 原本は Word ファイルを 1 部、電子投稿システム(Google Forms)に提出する。
- 2) 査読用として、投稿者を特定できる情報を伏字にした論文を 2 部複写し、期日までに論集編集委員会メールボックス(事務所)に投函する。
- 3) 初回査読後、修正が必要と判定された場合は、1) 2) に準ずる。

(文献表記の方法)

9. 学部生以外の場合

1) 引用の形式

下記のいずれかを使用する。

- ①著者年号形式(代表 APA; American Psychological Association ハーバードスタイル)
- ②番号引用形式(代表 NLM ;National Library for Medicine, バンクーバースタイル)

(1) 著者年号形式(ハーバードスタイル)の場合

(文献) 表 1 を参考に記載する。

表 1 基本的な文中引用スタイル

著者タイプ	カッコ引用	ナラティブ引用
1 名の著者	(佐藤, 2017)	佐藤 (2017)
	(Luna, 2020)	Luna (2020)
2 名の著者	(佐藤, 山本, 2001)	佐藤, 山本 (2021)
	(Sala & D'Agostino, 2020)	Sala and D'Agostino (2020)
3 名以上の著者	(田中ら, 2022)	田中ら (2022)
	Martin et al., 2020	Martin et al. (2020)

注: カッコ引用: 「,」の直後に半角スペースを空ける。

ナラティブ引用: 著者名とカッコの間に半角スペースを空ける。

異なる著者の引用文献を同一箇所でもカッコ引用する場合は、それらの文献を筆頭著者のアルファベット順に並べ、セミコロン「;」で区切って表示する。

例 (江藤, 2022; 前田, 2021)

(書籍)

書籍等の一部を引用する場合は、該当する引用箇所を以下のように記載する。

例 (佐藤, 2017, pp. 233-235) (Amstrong, 2015, p. 3)

(団体や組織が著者の場合)

以下のように記載する。

例 最初の引用: (厚生労働省情報セキュリティ委員会, 2022)

(National Institute of Mental Health [NIMH], 2020)

例 2 回目以降の引用: (厚生労働省, 2022) (NIMH, 2020)

(2) 番号引用形式(バンクーバースタイル)の場合

本文中の引用箇所に連番を表示する。

例 ○○○と報告されている¹⁾。佐藤¹⁾は、○○○○と述べている。

2) 引用文献リスト

(1) 実際に本文中で引用した文献のみを記載する。

(2) 著者名は筆頭著者以下3名まで記載し、それ以降は「他」または「et al」とする。

(3) 文献は、出典ごとにぶら下げインデントで記載する。

1行目は通常の開始位置、2行目以降は全角2文字の字下げをした書式とする。

(4) 下記のいずれかを使用する。

① 著者年号形式(ハーバードスタイル)。

② 番号引用形式(バンクーバースタイル)。

(5) 著者年号形式(ハーバードスタイル)の場合

① 著者名、出版年、タイトル、情報源の順に記載する。

② 筆頭著者のアルファベット順に並べる。

③ ローマ字が同姓の場合は、ローマ字の名を基準に並べる。

(文献)

著者名・(西暦発行年)・表題・雑誌名、巻(号)、開始ページ-終了ページ。

例 高島尚美, 村田洋章, 西開地由美, 他. (2017). 12時間以上人工呼吸管理を受けたICU入室患者のストレス経験. 日本集中治療医学会雑誌, 24(4), 399-405.

例 Moon, K., & Lee, S. (2015). The effects of a tailored intensive care unit delirium prevention protocol: A randomized controlled trial. International Journal of Nursing Studies, 52(9), 1423-1432.

例 Rotondi, A.J., Chelluri, L., Sirio, C., et al. (2002). Patients' recollections of stressful experiences while receiving prolonged mechanical ventilation in an intensive care unit. Crit Care Med, 30(4), 746-52.

(書籍)

単行本: 著者名 (西暦発行年)・書籍名 (pp.開始ページ-終了ページ), 発行元。

編集本の場合: 編者名 (編)・(西暦発行年)・書籍名・発行元。

翻訳本の場合: 原著者名・(原著西暦発行年 / 翻訳書西暦発行年)・翻訳者名 (編)・翻訳書名・発行元。

(ウェブ上の文書)

著者 (公表日または最終アップデート日)・文書名・URL [閲覧日]

例 衆議院 (2017/6/1)・第193回国会 衆議院 憲法審査会会議録 第7号会議録.
<http://kokkai.ndl.go.jp> [2019/7/30 閲覧]

例 Wakayama Tourism Federation (n. d.). World Heritage: The Kumano Kodo Pilgrimage Routes (The Official Wakayama Travel Guide).

<https://en.visitwakayama.jp/themes/world-heritage-the-kumano-kodo-pilgrimage-routes> [retrieved 2019/8/9]

(6) 番号引用形式(バンクーバースタイル)の場合

連番順、すなわち、本文中での引用文献の出現順とする。

著者名.表題. 雑誌名 西暦発行年;巻(号):開始ページ- 終了ページ.

例 高島尚美, 村田洋章, 西開地由美, 他. 12 時間以上人工呼吸管理を受けた ICU 入室患者のストレス経験. 日本集中治療医学会雑誌 2017; 24(4): 99-405.

10. 学部生の場合

1) アカデミック・スキルズ第3版——大学生のための知的技法入門』に準拠して(著者の姓 出版年:ページ)の形式で表記する。和書、洋書いずれであっても「:」は半角文字とし、直後に半角スペースを空ける。著者の数に応じて以下のように表記法を使い分ける。また文中に著者名が現れる場合には、()内のそれを省略することができる。

例 和書 (著者1名) (佐藤 2017: 233-235)

和書 (著者2名) (佐藤・山本 2001: 12)

和書 (著者3名以上) (佐藤他 2003: 23)

洋書 (著者1名) (Breig 2001: 23-44)

洋書 (著者2名) (Breig and Wolf 2002: 34)

洋書 (著者3名以上) (Breig et al. 2003: 454)

著者の省略 これを佐藤は再検討した (2017: 233-235)。

2) 『アカデミック・スキルズ第3版——大学生のための知的技法入門』に準拠して、文献は和書・洋書を一括して出版年順に並べ、文献毎に改行し、一文獻が複数行にまたがる場合には2行目以降を全角2字下げにする。

(1) 和書

原則として「,」「.」「:」は全角文字とし、前後にスペースを空ける必要はない。著者が複数いる場合には「,」で区切り、欧米人名が含まれる場合にはカタカナで名・姓の順に記し、間に中グロ「・」を打つ。書名、雑誌名は『』に、論文名等は「」に入れて記し、本題と副題との間は「——(2倍ダッシュ)」で区切る。文献の種類によって以下のとおり記載する。

①雑誌論文

著者, 出版年, 「論文名」, 『雑誌名』巻号: ページ (電子版の場合は、URL, 取得日) .

例 曾我洋子, 1984, 「STAI について」, 『看護研究』17 巻 2 号: 107-110.

②論文集の一論文

著者, 出版年, 「論文名」, 編者+編, 『書名』, 出版地: 出版社, ページ.

例 横山千晶, 2003, 「脚/足の復権——ヴィクトリア朝の歩行文化」, 武藤浩史, 榎沼範久編, 『運動+ (反) 成長——身体医文化論Ⅱ』, 東京: 慶応義塾大学出版会, 242-267.

③単行本

著者（または編者+編），出版年，『書名』，出版地：出版社（電子ブックの場合は、版名，取得日）。

例 鈴木正子，1996，『看護することの哲学』，東京：医学書院。

④訳書

原著者，出版年，『書名』，翻訳者+訳，出版地：出版社（電子ブックの場合は、版名，取得日）。

例 トマ・ピケティ，2014，『21 世紀の資本』，山形浩生，森岡桜，森本正史訳，東京：みすず書房（Maruzen eBook Library 版，2019 年 7 月 29 日取得）。

⑤事典項目（冊子体）

著者（不明の場合は著者不明），出版年，「項目名」，『事典名』巻，ページ。

例 ウィントン・ディーン，1994，「批評」，『ニューグローヴ世界音楽大事典』14 巻，202-212。

⑥事典項目（オンライン）

著者（不明の場合は著者不明），最終アップデート年，「項目名」，『事典名』（URL，取得日）。

例 吉田精一，2006，「与謝野晶子」，『ブリタニカ・オンライン・ジャパン』（<https://www.britannica.co.jp/online/bolj/>，2019 年 7 月 30 日取得）。

⑦新聞記事

著者（記名記事でない場合は社名），出版年，「記事名」，『新聞名』，発行日，版や巻，ページ（電子版の場合は、データベース名，URL，取得日）。

例 鶴光太郎，2019，「働き方改革と生産性向上 従業員の理解、業績に直結（経済教室）」，『日本経済新聞』，2019 年 7 月 5 日，日刊，25。

⑧ウェブ上の文書

著者（または発行者），公表年または最終アップデート年，「文書名」，必要に応じて文書作成日（URL，取得日）。

例 衆議院，2017，「第 193 回国会 衆議院 憲法審査会会議録 第 7 号会議録」，2017 年 6 月 1 日（<http://kokkai.ndl.go.jp>，2019 年 7 月 30 日取得）。

（2）洋書

原則として「，」「.」「:」は半角文字とし、直後に半角スペースを空ける（ただしこれらの記号が直後に連続する場合にはスペースは不要である）。筆頭著者は姓・名の順に書き、姓と名の間を「，」で区切る。2 人目以下はその国の習慣に従って名・姓の順に記して間に半角スペースをとり、著者が複数いる場合には「，」で区切り、最後の著者名の前に「， and」を置く。書名、雑誌名はイタリック体（斜体）で、論文名等は“ ”に入れて記し、本題と副題との間は「:」で区切る。記載項目は和書に倣い、文献の種類によって以下のとおり記載する。

①雑誌論文

著者，出版年，“論文名”，雑誌名，巻号：ページ（電子版の場合は、URL，取得日）。

例 Hedger, Stephen C., Shannon L. M. Heald, and Howard C. Nubaum, 2013, “Absolute Pitch May Not Be So Absolute”, *Psychological Science* 24, no. 8: 1496-1502(JSTOR, <https://www.jstor.org>, retrieved July 16, 2019).

②論文集の一論文

著者，出版年，“論文名”，編者，書名，出版地：出版社，ページ。

例 Notomi, Noburu, 2004, “Ethical Examination in Context: The Criticism of Crtias in Plato’s Charmides”, Maurizio Migliori, Linda M. Napolitano Valditara eds., *Plato Ethicus: Philosophy is Life*, Sankt Augustin: Academia Verlag, 245-254.

③単行本

著者（または編者），出版年，書名，出版地：出版社（電子ブックの場合は、版名，取得日）。

例 Kane, Robert, 1996, *The Significance of Free Will*, New York: Oxford University Press.

④事典項目（オンライン）

著者（不明の場合は著者不明），出版年，“項目名”，事典名（URL，取得日）。

例 Ellen Rosand, Beth L. Glixon, 2002, “Strozzi, Barbara [Valle, Barbaral]”, *Grove Music Online* (Oxford Mucic Online, <https://www.oxfordmusiconline.com>, retrieved July 30, 2019).

⑤新聞記事

著者（記名記事でない場合は社名），出版年，“記事名”，新聞名，発行日，版や巻，ページ（電子版の場合は、データベース名，URL，取得日）。

例 Melissa Eddy, 2013, “East German Model City Rusts, Quarter-Century After Berlin Wall’s Fall”, *New York Times*, Nov 4, 2013, A6 (ProQuest Historical Newspapers, <https://www.proquest.com/products-services/pq-hist-news.html>, retrieved August 1, 2019).

⑥ウェブ上の文書

著者（または発行者），公表年または最終アップデート年，“文書名”，必要に応じて文書作成日（URL，取得日）。

例 Wakayama Tourism Federation, n. d. “World Heritage: The Kumano Kodo Pilgrimage Routes” (The Official Wakayama Travel Guide, <https://en.visitwakayama.jp/themes/world-heritage-the-kumano-kodo-pilgrimage-routes>, retrieved August 9, 2019).

附 則

この要項は、令和3年7月21日から施行する。

附 則

この要項は、令和4年7月20日から施行する。

附 則

この要項は、令和5年6月21日から施行する。

附 則

この要項は、令和6年6月19日から施行する